

## 「自ら考え、課題を解決できる児童の育成」

～つながりあい、学びあう学習集団づくりを通して～

### I 研究内容

#### 1 研究内容と方法

##### (1) 研究内容

- ・つながりを取り入れた授業実践および授業公開の実施
- ・CAPDサイクルを活用した授業改善の取り組み
- ・一人一実践の取り組み
- ・児童の実態把握（NRT検査の分析・Q-U検査の分析・学習アンケートの実施）
- ・K-13法を用いたQ-Uでの学級づくり
- ・学びを促す学習環境づくり

##### (2) 研究方法

- ・全職員の共通理解を図るために、全体研究会を中心に研究を行う。
- ・講師を招いて、児童の実態にあった理論研究を行う。
- ・授業公開を行うと共に、授業改善についての研究を行う
- ・NRT検査・Q-U検査・学習アンケートから、児童の実態を把握する。

#### 2 研究実践

##### (1) 理論研究

◇「つながりあい、学びあう学級づくり」

講師 長尾 雅裕先生（甲州市スクールカウンセラー）

◇「つながりあい、学びあう学級づくり・授業づくり」

講師 清水 宏幸先生（義務教育課指導主事）

##### (2) 実態調査

###### ① NRT検査の分析（5月）

各学年・各教科ごと、学年平均と全国平均を出し、今年度特に力を入れて指導すべき内容を明らかにすると共に、どのような手立てを講じていくのかを検討。

###### ② 学習アンケートの実施（5月・2月）

学びあいに関する8つの項目を設定し、5月と2月に実施した。5月の結果を受けて各クラスで取り組みを行い、その結果子どもたちの意識が2月にどのように変容したのかを分析した。

###### ③ K-13法簡易版によるQ-U検査の分析（6月・12月）

4月と11月に行ったQ-U検査の結果を受け、学年ごとにK-13法簡易版を用いてそれぞれに分析を行った。また全校のプロット図を作り、全職員で児童の共通理解を図った。

##### (3) 授業実践

###### ア 研究授業

- ・第5学年 小林由紀子教諭 算数科 「比べ方を考えよう」
- ・第3学年 藤原 和美教諭 国語科 「わたしの食べ物事典を作ろう」

###### イ 授業公開（一人一実践）

- ・第1学年 岩下 和子教諭 国語科 「ふゆのことばをあつめよう」
- ・第2学年 小野 紀男教諭 算数科 「1000より大きい数」
- ・第4学年 廣瀬 尚子教諭 算数科 「小数のかけ算とわり算」

- ・第6学年 荒井 祐貴教諭 算数科 「場合の数」
- ・なかよし 武井 敏江教諭 国語科 「ローマ字」
- ・教務主任 土屋 弘明教諭 理科 「水溶液の性質と働き」

#### (4) 日常的な取り組み

学年に応じた、系統的な学習規律を確認し、その徹底を図った。学習用具の準備から使用するノートの日安等、各家庭へ周知を図るとともに、子どもたちが自分たちで意識できるよう学級掲示等も行った。

## II 研究内容

### 1 成果

- (1) 2回の学習会を通して学級作りや学習指導の基礎を学ぶことができた。さらに、なぜ学級作り・集団づくりが大切なのか、集団で学ぶことの意義は何なのか等を、教師がしっかりと意識した上で取り組むことが大切だと言うことを再認識できた。
- (2) NRT 検査の結果を数値化し、学力分析をていねいに行うことで、授業実践・授業改善に役立てることができた。
- (3) 研究テーマに沿った学習アンケートを実施することにより、子どもたちの思いを知ることができたとともに、その変容についても見取ることができた。
- (4) Q-U 検査について学年ごとに K-13 法簡易版による分析をかけたことで、子どもたちの実態を知り、多くの対応策がだされ、学級づくりに役立てることができた。また学年だけでなく全校のプロット図を作成したことにより、全職員が同じ歩調で児童に関わることができた。
- (5) 子どもたちの「つながりあい」や「学びあい」に焦点を当て、ペア学習・小集団学習を意図的に仕組み、課題解決をする力を育成するという点について実践し、効果を検証することができた。
- (6) 研究授業では、子どもたちのつながり・学びあいを意識した授業実践が行われ、小集団での活動にも多くの工夫がなされ、日々の実践に生かしていけるものであった。
- (7) 一人一実践を通し、お互いの授業を見せ合うことで、多くの刺激や学びが生まれた。また、それぞれが自分の授業を見直すよい機会となった。
- (8) 学習規律について、学年の発達段階を加味しながら統一されたものを作ったことで、毎年どの学年を誰が受け持っても「スタンダード」として徹底できるようになった。全職員が同じ歩調で指導できるようになった。

### 2 課題

- (1) 実践授業を通して、「見通す」「振り返る」といった全国学習状況調査や教育課程説明会で課題とされている点を十分に意識できていない部分があった。
- (2) 学校としての家庭学習に関する取り組みを行ってきたが、今後は家庭との連携にも更に力を入れて取り組んでいけたら良いのではないか。
- (3) 学習規律については本校の「スタンダード」として徹底を図り、それを維持していかなければならない。
- (4) 来年度以降更に進んでいく学級の少人数化にどう対応していくか。ペアや小集団学習が使えない人数の学級にはどのような学習方法が効果的であるのかも考えていく必要がある。

## III 成果物

- 1 研究授業及び公開授業の指導案 8 点
- 2 学習アンケート結果 (2 回実施)
- 3 NRT 検査の分析結果 (2～6 学年)
- 4 Q-U 検査の分析結果 (2 回実施)
- 5 全校プロット図 (2 回分)

(研究主任 岩下 和子)